



第9章

計画の進捗管理

9-1. 目標値の設定

本計画の策定後、都市計画マスタープランの目指すまちづくりの進捗状況や取組の妥当性を定量的に評価する観点から、客観的なデータの取得が可能な評価指標を設定したうえで、以下のように目標値を設定します。

【評価指標】

① 居住誘導区域内の人口密度

居住を誘導する施策の進捗状況を測る指標として、居住誘導区域内の人口密度を設定します。目標値は、将来的に大幅な人口減少が続くことが予測される中で、減少幅を抑えることを目指して設定します。

② 都市機能誘導区域内の誘導施設の件数

都市機能を誘導する施策の進捗状況を測る指標として、都市機能誘導区域内の誘導施設の件数を設定します。

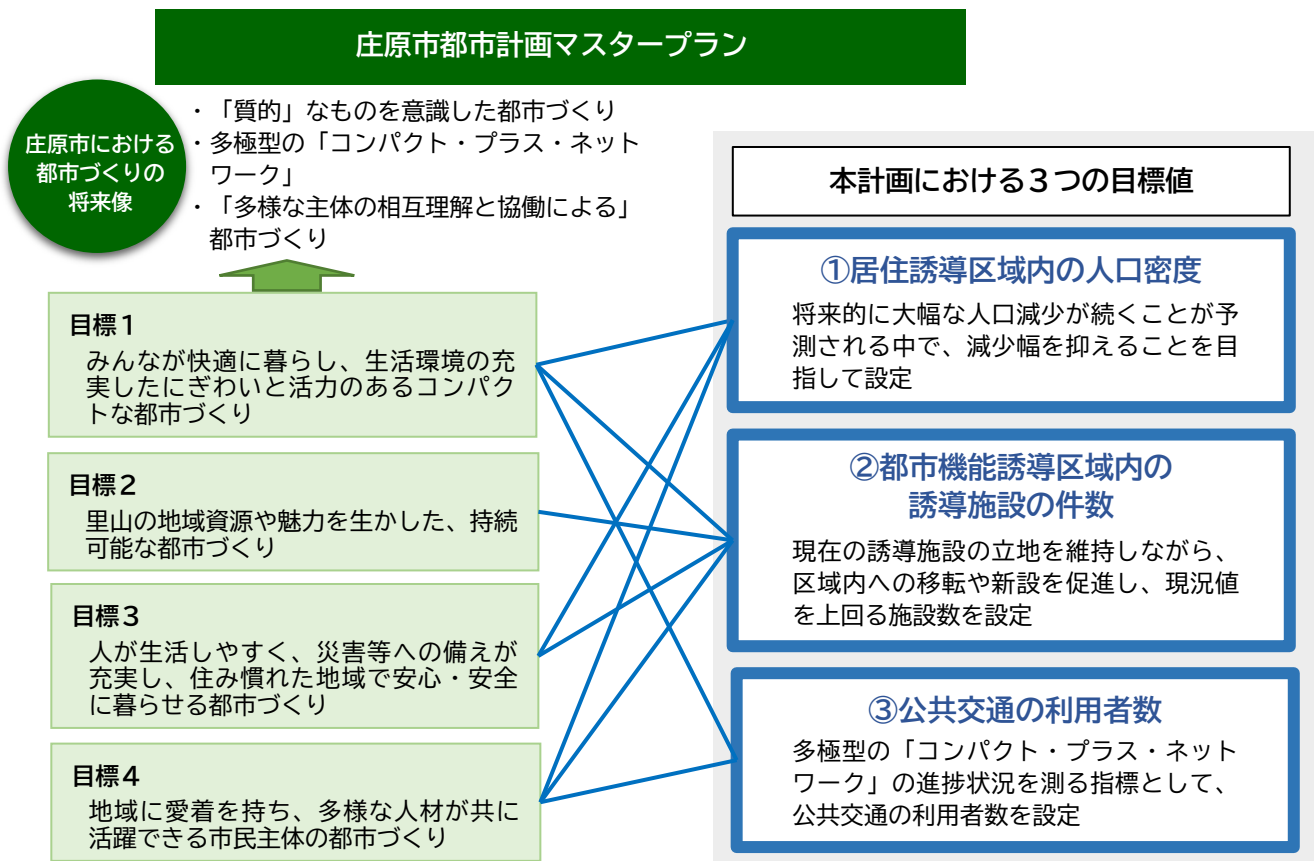
目標値は、現在の誘導施設の立地を維持しながら、区域内への移転や新設を促進し、現況値を上回る施設数となることを目指して設定します。

③ 公共交通の利用者数

居住と都市機能の誘導による多極型の「コンパクト・プラス・ネットワーク」の進捗状況を測る指標として、公共交通の利用者数を設定します。

目標値は、庄原市地域公共交通計画（令和3年5月）との整合を図り、同計画の改定時には必要に応じて見直すものとします。

【目標値の位置付け】



【設定する目標値】

評価指標	地域	現況値		目標値(R22)	備考
①居住誘導区域内の人口密度	庄原	16.7 人/ha (R2)	⇒	15.0 人/ha	予測値:13.8 人/ha(R22)より 8.7%増
	東城	14.8 人/ha (R2)	⇒	11.0 人/ha	予測値:10.4 人/ha(R22)より 5.8%増
	西城	12.9 人/ha (R2)	⇒	9.0 人/ha	予測値:8.4 人/ha(R22)より 7.1%増
	第2期庄原市人口ビジョンにおける将来展望(市全体において R22 時点で社人研推計より 4.7%増)を参考に、居住誘導区域内ではこれを上回る増加率を目指すものとして設定 R22 国勢調査の数値にて評価				
②都市機能誘導区域内の誘導施設の件数	庄原	30 件(R4)	⇒	30 件以上	誘導施設に設定した、 商業・医療・福祉・子育て・金融・行政・ 文化交流・その他 の各機能を持つ施設数の合計
	東城	24 件(R4)	⇒	24 件以上	
	西城	16 件(R4)	⇒	16 件以上	
	令和 4 年 11 月現在の施設数(P.6-2~P.6-7 参照)の維持を図るものとして設定 R22 時点での実数にて評価				
③公共交通の利用者数	全域	311,481 人/年 (R1)	⇒	340,000 人/年 以上	市内を運行する公共交通の利用者数 JR 市内駅乗車人数と路線バス・市運行 生活交通路線・自家有償旅客運送 (交通空白地)・市民タクシーの 市内利用者数の合計
	「庄原市地域公共交通計画」(目標年次:令和7年度)における目標値を参考に、本計画の目標年次(令和 22 年度)にはそれ以上の達成度となっていることを想定して設定 「庄原市地域公共交通計画」の数値にて評価				

資料：第2期庄原市人口ビジョン、庄原市地域公共交通計画

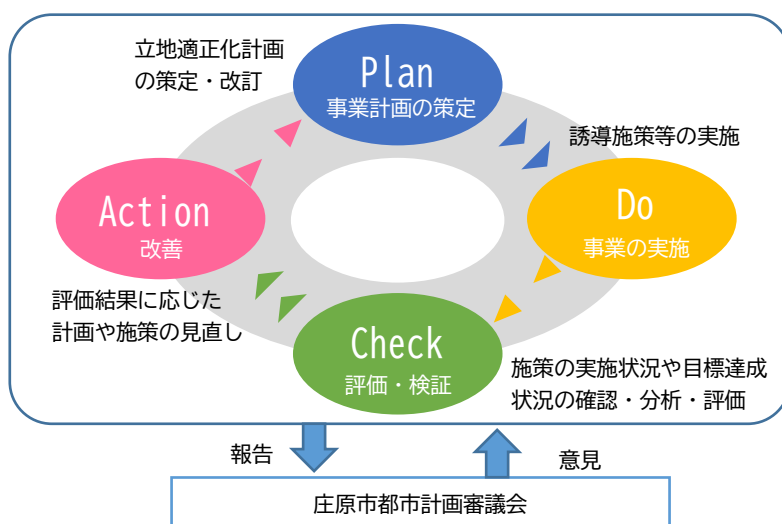
※R2 年国勢調査を基準として目標値を設定します。

※③の目標値は、「庄原市地域公共交通計画」の改定により目標値の見直しがあった場合には、本計画の改定時に整合を図るものとします。

9-2. 進捗管理の方針

本計画は、令和5年度からおおむね20年後の令和24年度（2042年度）までを計画年次としています。

その進捗管理のため、計画策定後は、国勢調査と合わせて、計画に基づく施策の実施状況の確認や、目標達成状況の確認・分析・評価を行います。その上で、計画や施策の見直し・改善を図る、いわゆる「PDCAサイクル」を繰り返すことにより、計画の目標とする都市構造の着実な実現を目指します。



PDCAサイクルのイメージ

また、進捗管理にあたっては、施策や目標値の達成状況に加えて、「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省 H26）」等に基づく指標も参考とし、客観的かつ定量的な視点から実施します。

更に、本市による自己評価結果について、専門性・中立性を有する「庄原市都市計画審議会」に報告し、意見を踏まえながら施策の充実・強化などの改善策を検討します。

